

第112号 「図書館報」に掲載された

先生方から



おすすめの本の紹介

紹介した6冊の本は、すべて
図書館にありますので、ぜひ借り
て読んでみて下さい。



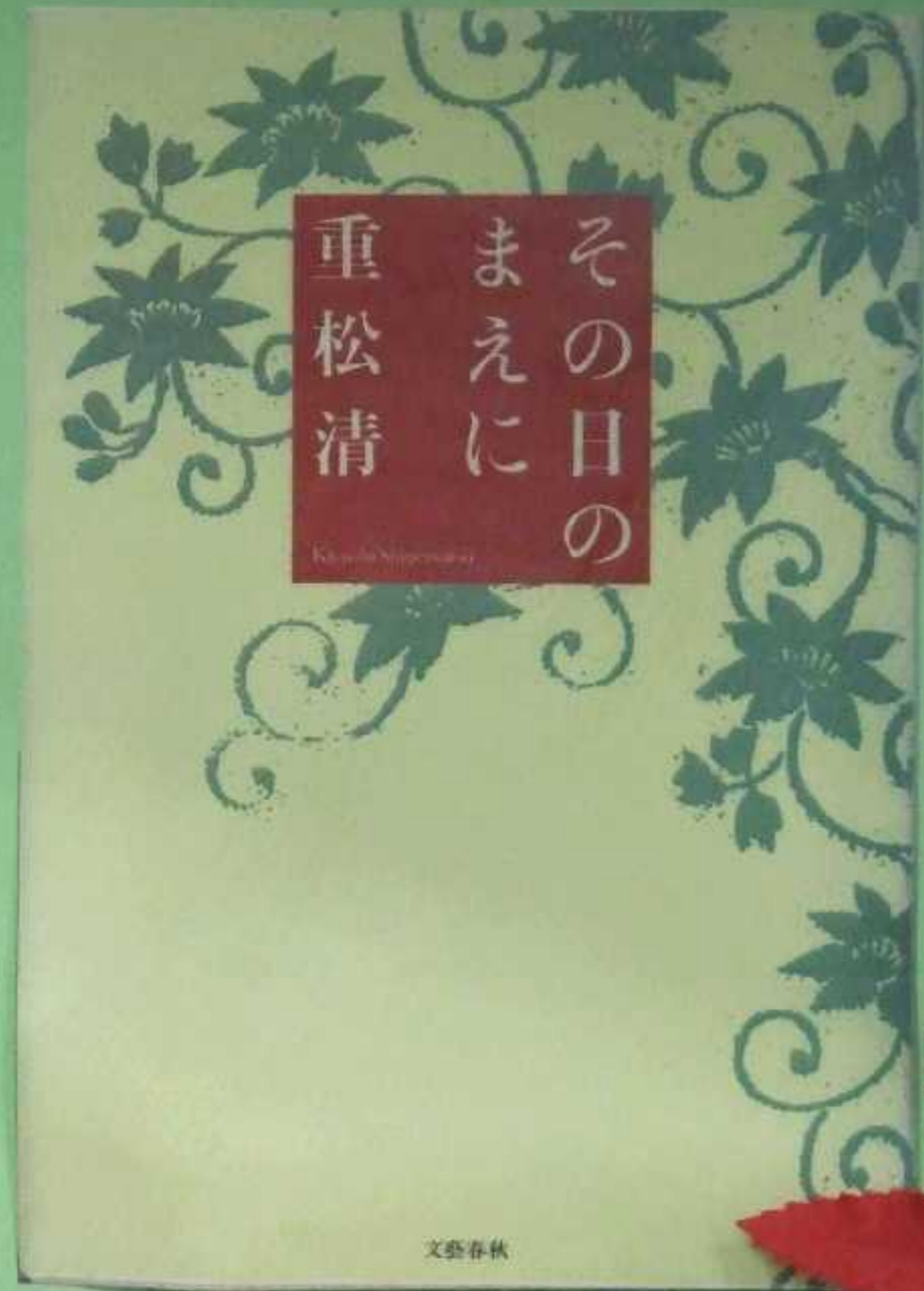
「その日のまえに」

重松 清 著

文藝春秋

石淵 愛美先生

愛する大切な人との永遠の別れは、淡々と
過ぎていく日常の中で突然訪れる。余命を告
げられ、「死」に直面した人々の悲しくも確
実にやってくる「その日」までの日々、そし
て、「その日のあと」を真摯に描いた短篇集
いずれは訪れるかけがえのない人の「その
日」、そして自分自身の「その日」のまえに、
いつも通りに明日はくると思って過ごしてい
る今の自分のままでよいのかと考えさせられ
た。私を支えてくださる方々への感謝の気持
ちを忘れずに、生きている「今」を大切にし
ていこうと改めて強く思うきっかけとなった
一冊である。



「置かれた場所で咲きなさい」

渡辺 和子 著

幻冬舎

太田 博勝先生

人はどんな境遇でも輝ける。人は、こんなはずじゃなかったと思うことに、次から次へとぶつかります。そういう時にその状況の中で咲く努力をすること、現実が変わらないなら、悩みに対する心の持ちようを変えること。人生においては、順風満帆の生活からよりも山あり、谷ありの人生、失敗もあり、挫折も味あう、苦勞の多い人生から立ち上がる時の方が、「発展」の可能性があるという前向きな捉え方が大切だと教えてくれた本です。

置かれた場所で
咲きなさい

渡辺和子

ノートルダム清心学園理事長



「少年少女のための日本名詩選集 14

八木重吉」

萩原 昌好 著

あすなろ書房

松田 順子先生

「わたしは、友が無くては、耐えられぬ
のです。」の序文で始まるこの詩集に出会った
のは、私が高一の頃だった。親への反抗心、
世の中への不満だらけだったその頃の私の心
を少なからず鎮めてくれたのがこの詩集だっ
た重吉の詩は大変短く、純粹で素朴、わかり
易い言葉でその心がつづられている。

八木重吉は明治三十一年に町田市で生まれ
大学卒業後英語教師になった。最後は現在の
県立東葛飾高校で教えたが結核に倒れ、昭和
二年、二十九歳という若さで二千以上の詩を
遺して没している。

八木重吉



14 萩原昌好編
少年少女のための日本名詩選集

あすなろ書房

「相対性理論の世界」

ジェームズ・A・コールマン 著 講談社

都祭 勘司先生

この本を読むのに予備知識はいりません
数学や物理の知識がなくても理解できるように
組み立てられています。中に数式も出てき
ますが、こだわらずにとぼして読んでいっ
てもかまいません。この理論は名前がよく知ら
れていますが、その内容となるとほとんどの
人は知らないのが実情です。私も高校2年生
の時、この本を手ほどきとして相対論に取り
組んでみました。この理論が語ってくれる奇
妙な世界が現実の世界を示していることは驚
きです。是非この驚きを味わって下さい。



「新ビルマからの手紙」 1997~1998/2011

アウンサンスーチー 著 毎日新聞社

一関 智子先生

ビルマ民主化運動の指導者、アウンサンス
ーチーさんの花の曼荼りは、再会することな
く死別した英国人の夫と誕生日に贈りあった
花である。軍事政権の弾圧を受けながらも民
衆を救うために、花飾りをつけて闘っている
を見て、この静かな闘争心の源を知りたく
った。本からは想像以上に奇麗な生活が感
られる。その一方で、ビルマの四季や自然
の美しさが表現され、伝統文化も伝えてくれ
る。また、家族愛の深さやわけ隔てのな
さの広さから彼女の強さが感じられた一
冊。



新ビルマからの手紙

1997~1998/2011

アウンサンスーチー 著 毎日新聞社 刊